日米桜交流 100 年記念のバレエ衣装

富田 弘美¹ 赤間 公美² 大竹 亜梨紗² 及川 美紀²

日米桜交流100年を迎えた2012年にメルパルクホールで開催された中原由美子「バレエ・フレイグランス 〜舞い香る〜 第10回公演」において、衣装のデザイン・制作を行うことを目的として、和服の要素を取り入れた荒川の五色桜と逞しい救いの風の役柄を表現するために材料、色彩、シルエットを設定して縫製を行い、次の結果を得た。

オーガンジー6枚重ねの青系、黄色系、ピンク系のグラデーションを荒川の五色桜に見立てた衣装は、照明が当たるとより透明感を増して美しく多彩に発色した。さらに、表地の淡いピンクの羽二重はやさしい光沢を放し、軽さと薄さがひらひらと舞い踊る桜の花びらを表した。また、救いの風では、武士の当世具足の籠手、臑当て、草摺から逞しさが表現されると伴に、煌びやかな金糸のジャカード織物で公家の優雅さが漂うような衣装が完成した。したがって、桜をめぐる様々な想いの創作バレエ「桜香舞」の衣装として着装した。

キーワード: バレエ 舞台衣装 五色桜 荒川堤 日米桜交流

1. 目的

日米桜交流は、日本の美しい桜に魅了されたアメリカの紀行作家エリザ・シドモア女史が、ワシントンDCのポトマック川河畔への桜の植樹を、アメリカ第27代大統領夫人ヘレン・H・タフトに提案することから始まり¹⁾、1912年(明治45年)、荒川堤の桜がアメリカに渡って2012年(平成24年)に100年を迎えた。この年の3月には、ワシントンDCの西ポトマック公園で、記念式典などのイベントが多数開催されていたが²⁾、桜をテーマにしたバレエ公演の開催の報告はみられない。

本報では、中原由美子「バレエ・フレイグランス 〜舞い香る〜 第10回公演」において、桜をめぐる様々な想いをテーマとする創作バレエ「桜香舞」の構成、演出、振付に基づき、和服の要素を取り入れたバレエ衣装のデザイン・制作を行うことが目的である。

女性の衣装デザインは「荒川の五色桜」、すな

わち、紅、濃紅、白、黄、薄墨など様々な色合いを楽しめることからそのように呼ばれた³⁾ この桜から多彩で華やかな桜を発想した。一般に、桜を扱う舞台衣装では、淡いピンクで桜の花を表現する傾向は見られるが、多彩な色使で表現したものはみられない。男性の衣装デザインでは、構成、演出、振付内容から逞しさと優雅さをもつ救いの風の役柄を表現した。

衣装制作は、女性用6着、男性用3着で、ダンサーの身体の採寸、パターンメーキング、裁断、フィッティングを数回行い、本縫い、仕上げという工程で完成させる。また、バレエ公演では、照明合わせ、リハーサル、衣装のサイズ変化や動きによる修正を行って衣装デザインを担当する。

2. 方法

(1) 創作バレエ「桜香舞」の構成

前述の「桜香舞」は、中原由美子氏の構成・演出・振付による創作バレエである。内容は①開花を待ち望む、②命の充実の喜び、③揺れ動く心、

¹ 東京家政学院大学現代生活学部生活デザイン学科

² 東京家政学院大学家政学部現代家政学科

散りゆく哀歌、④救いの風、⑤再び命に向う、⑥ 爛漫、賛歌という桜をめぐる様々な想いを表現している。音楽は、臨場感あふれる筝と笛の生演奏で、ダンサーの構成は女性6名、男性3名である⁴⁾。

(2) 女性ダンサーの衣装デザインと製図 ①コンセプト

和服の要素を取り入れて、春の花曇の空を漂う 荒川の五色桜を透ける多色の布の重なり合いや軽 くひらひらと舞い踊る動きを表現する。

②材料

図1は、上から羽二重、ジャカード織物、オーガンジーの生地標本である。桜の花びらがひらひら舞う様を表現するために、表地に淡いピンクで薄く軽い平織の羽二重(シルク100%)を使用する。また、衣装全体の軽量化するために、化学繊維ではなくシルク素材を用いる。

5色の桜が織られているジャカード織物(ポリエステル100%)を用いて、和服の掛衿のように柄合わせをして華やかな衿元を演出する。

オーガンジー(ポリエステル100%)は、軽やかさと透明感のある生地なので、荒川の五色桜の色彩を表現するためには大変重要な材料である。色彩系統は3種類あり、青系を例にするとオーガンジー6枚、すなわち青、緑、黄、淡いオレンジ、やや淡いピンク、淡いピンクを3cmの間隔で重ね合わせ、表地羽二重の淡いピンクに近似させて

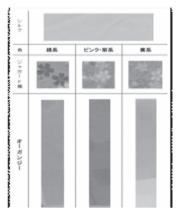


図1 主な材料(生地)

色彩のグラデーションを構成させる。他のピンク系では紫、濃いピンク、やや濃いピンク、濃いサーモンピンク、淡いピンクの6色を組み合わせた。黄色系では黄緑、山吹、淡いオレンジ、サーモンピンク、やや淡いピンク、淡いピンクを組み合わせた。オーガンジーは透ける素材のため、重ね合わせることで色が混ざり合い、新たな色を発色させる。このことを考慮しながら五色桜の色彩を決定した。

胸元の組紐(ポリエステル100%)には、房が付いており、紫、ターコイズブルー、山吹の3色とする。

③デザイン・製図

図2、図3はデザイン画と身頃・スカートの 製図である。スカートは7枚はぎで、3/4サー キュラーのフレア量を裾回りに入れた。これは、 足を高く上げるクラシックバレエのポーズ、例え ば、アラベスク(Arabesque)やアティテュード (Attitude)などで必要とする裾回りの量である。

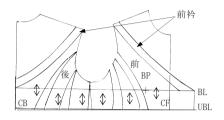
シルエットは、「フィット & フレア」で、ア ンダーバスト位置からウエスト、ミドルヒップに かけて身体にフィットさせ、スカートの広がりを より強調させている。

身頃は、身頃原型のウエストダーツの位置にパネル切り換えのラインを設定し、6枚パネルで身体にフィットする状態にする。これは、パネル数が多いほど身体形状をカバーすることが可能になるからである。また、アンダーバスト位置でスカー



図2 女性の五色桜の衣装

トと切り換え、その部分に組紐の飾りを付けた。 身頃の開きは、和服の打ち合わせのように前で重 ねているが開かないように縫い留め、後ろ中心に 開きを設定する。開きの留め具はホックと糸ルー プを使用し、バスト、ウエストのサイズに変化 が生じたときに修正し易くする。



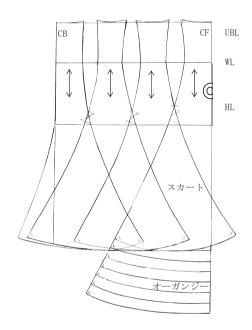


図3 女性の五色桜の身頃とスカートの製図

図4は、フレアースリーブの製図である。前述のスカートの構造と同じく、オーガンジー3枚(3 色)を3cmの間隔で重ね合わせ、青系、ピンク系、

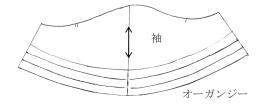


図4 フレアースリーブの製図

黄色系として表地の羽二重の下に重ね合わせる。 身体の動きに合わせて揺れ動くフレアースリーブ にした。

また、袖底で基本の袖原型より3cm追加させて、上肢90度挙上時の運動機能性のゆるみを追加する。

頭飾りは、枝付きの桜の造花と身頃に付けた同 色の組紐を使用する。

(3) 男性ダンサーの衣装デザインと製図

①コンセプト

最期の花びらに再び桜吹雪として舞い踊らせる という命を吹き込む救いの風を、和の要素をもつ 武士の具足と金糸の織物で逞しさと力強さ、さら に優雅さを表現する。

②素材

図5のデザイン画の身頃とパンツは、伸縮性に優れて光沢のある白いベロア(ポリエステル100%)を使用する。

また、図5の生地標本は桜模様の金糸を織り込んだジャカード織物(ポリエステル100%)である。 色彩は若草、青、黒で、籠手(こて)、臑当て(すねあて)、腰の草摺(くさずり)、衿ぐり部分に使用し、煌びやかな公家の優雅さを表現する。

籠手と臑当ての編み上げの紐(木綿100%)は、 モスグリーン、濃紺、黒で色を揃える。



図5 男性の衣装デザイン

③デザイン・製図

図5のデザイン画のように金糸織物で縁取られたスクエアの衿ぐりは、平安時代の直衣(のうし)という公家の平常服から取り入れた。また、散りゆく桜に再び命を吹き込む救いの風の役柄を、武士の当世具足の籠手、臑当て、草摺を用いて力強さと逞しさを表す。

これらの当世具足の色彩は、若草、青、黒で、身頃の白に対して強調する色として設定する。

図6は袖と籠手の製図である。袖ぐりの底(脇の下)に、上肢90度挙上したときの運動機能性としてマチを入れて、約9cmのゆるみを袖底に追加した。また、舞台衣装は素早い着替えを要求されるため、着脱し易いように袖に籠手を縫い付けた。

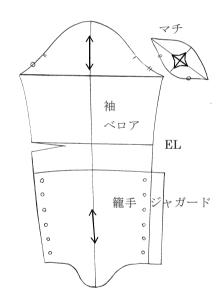


図6 袖と籠手(こて)の製図

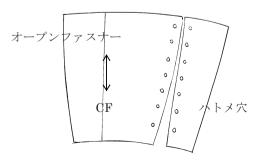


図7 臑当て(すねあて)の製図

また、図6の籠手と図7の臑当てにはハトメ穴付きの編み上げが付いており、サイズ調整が可能である。しかし、臑当ては、着脱をし易くするために内側にオープンファスナーの開きを設ける。

図8の草摺は腰部で着装するが、激しい動きを 伴う振付のため、身頃と草摺は脇の位置で紐を結 んで留めて着装する。

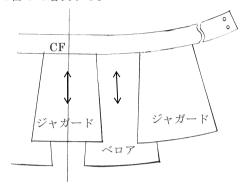


図8 草摺(くさずり)の製図

図9は身頃とパンツの製図である。パンツを着装した上に籠手、臑当て、草摺を付けるために、パンツはスリムなシルエットにするが、伸縮性のある素材なので動きやすい。

前身頃はダブルの打ち合わせで、前中心より約8 cmの位置に前端があり、金糸織物の4 cm幅の前立てがついている。

身頃の開きは、ホックと糸ループで留めるが、激しい動きを伴うため、直径1.8cmの大きめなスナップをホックとの間に縫い付ける。

3. 結果および考察

(1) 女性ダンサーの衣装

図10は完成した女性の衣装である。荒川の五色 桜の色彩を表現するために大変重要な材料である オーガンジー6枚重ねの裾は、照明が当たるとよ り透明感を増し、重ねた色彩が溶けだすように混 ざり合い、青系、黄色系、ピンク系のそれぞれの グラデーションを美しく多彩に発色した。また、 袖のオーガンジーも同様であった。6枚も重ねた 裾であったが、重い雰囲気を感じさせなかった。 表地の淡いピンクの羽二重は、やさしい光沢を伴 い、軽さと薄さがふわりと宙に舞う花びらの踊る

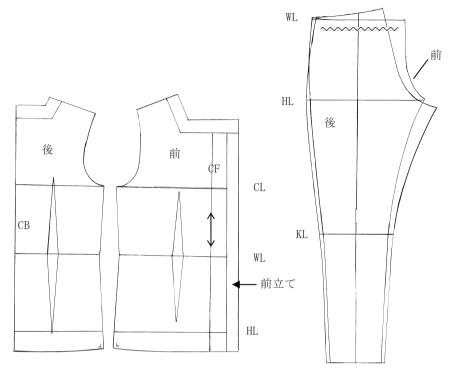


図9男性の衣装の身頃とパンツの製図



図10 完成した女性の衣装

様子を連想させた。

シルエットは「フィット & フレア」で、身頃が6枚のパネル切り換えによってウエスト周りはフィットしており、スカートはアンダーバストライン位置のハイウエストで切り換えているため、3/4サーキュラーのスカートのフレア量が、実際よりも多く入っているように裾回りの広さが強調された。

ウエスト回りにおいて考慮した点は、縫製上丈

夫にすることと装飾を控えたことである。これは、男性ダンサーが女性ダンサーを持ち上げるリフト(Lift)や男女2名で踊るパ・ド・ドゥ(Pas De Deux)などで、激しい動きとともにウエストを素手で支えるからである。この衣装では、アンダーバストラインの縫い目上に組紐の飾りのみを縫い付けた。

スカートの裾は、図11のように6枚重ねのオーガンジーの端にテグスを縫込むことで、軽やかに波打って翻るような表情が表れ、裾の色彩のグラデーションに変化をもたせた。



図11 オーガンジーの裾

図12の頭飾りは、枝付きの桜の花と身頃に付けた同色の組紐を使用し、和風の落ち着きと具象的な自然の雰囲気が表れた。



図12 桜の髪飾り

(2) 男性ダンサーの衣装

図13は完成した男性の衣装である。散りゆく桜に再び命を吹き込む救いの風の役柄として、武士の戦さの具足である籠手、臑当て、草摺などが力強く逞しさを表現し、日本の武士の強さの表現として効果がみられた。しかし、この「桜香舞」の演出は、ただ荒々しい力強さを表現するのではなく、公家の優雅さを帯びた雰囲気をも必要としていたため、金糸を使ったジャカード織の煌びやかな織物がその効果を放していた。

また、図13の金糸織りの前立ては、衿ぐり、草摺へと視線を運び、さらに籠手、臑当てというように縦のラインを繋ぎ、統一感をもたせた。



図13 完成した男性の衣装

(3) バレエ公演および発表 荒川の五色桜をイメージした衣装は、図14、図 15のように2012年6月8日、メルパルクホール、「バレエ・フレイグランス 〜舞い香る〜 第10回公演」で日米桜交流を記念した創作バレエの演目「桜香舞」にて女性衣装6着、男性衣装3着を発表した。

図14の女性の踊りでは、開花を待ち望み、命の 充実を喜び、揺れ動く心と散りゆく哀歌、爛漫、 替歌として桜の様々な想いを表現した。

裾の色彩と羽二重のスカートは、透ける素材の色が混ざり合い、春の花曇の空に荒川の五色桜が漂い、ほどよく垂れ下がるドレープがひらひらと揺れ動く花びらの様子を感じさせ、照明があたるとシルクの光沢が明確になり、光と影が織り成す美しいドレープが生じていた。

ダンサーは、津田康子、安蒜知見、山口ゆりあ、 佐渡八千代、菊池裕香である。



図14 バレエ・フレイグランス公演「桜香舞」 撮影: (株) エー・アイ

図15の男性の踊りでは、救いの風、そして再び 命に向う、爛漫、賛歌を表現した。ダンサーは、 池川恭平、高島康平、荒井英之である。



図15 バレエ・フレイグランス公演「桜香舞」 撮影: (株) エー・アイ

図16は2012年12月8日、大学コンソーシアム八 王子の学生発表会に参加し、展示発表部門で準優 秀賞を受賞した。



図16 大学コンソーシアム八王子学生発表会

4. まとめ

日米桜交流100年を迎えた2012年に開催した中原由美子「バレエ・フレイグランス 〜舞い香る 〜 第10回公演」の舞台衣装のデザイン・制作をすることが目的である。方法は、荒川の五色桜と逞しい救いの風の役柄を表現するために和服の要素を取り入れたデザイン、材料、色彩、シルエットを設定して縫製を行い、次の結果が得られた。

① 荒川の五色桜をイメージした女性の衣装は、透けて軽いオーガンジーを青系、黄色系、ピンク系の色で重ね合わせたグラデーションで表現した。さらに、照明が当たると透明感を増し、重ねた色が混ざり合って美しい多彩な発色がみられた。淡いピンクの羽二重は、翻るフレ

- アースカートから桜の花びらがひらひら舞う 様を表現することができた。
- ②男性の衣装は、平安時代の公家の直衣、武士 の当世具足の籠手、臑当て、草摺などを金糸 の織物を用い、最期の花びらに再び命を吹き 込む救いの風として逞しさと力強さおよび優 雅さを表現した。
- ③桜をめぐる様々な想いをテーマとした創作バレエ「桜香舞」では、開花を待ち望む、命の充実の喜び、揺れ動く心、散りゆく哀歌、救いの風、再び命に向う、爛漫、賛歌という構成・演出を基にしてデザインした衣装、女性6着、男性3着を発表した。

参考文献

- 1) 静岡市役所公園計画課緑化担当 『日米友好の桜の歴史と桜誕生の地・興津』 http://aranishi.hobby-web.net/3web_ara/ shizuoka 0905.pdf 2009/05/
- 2) 外務省:『日本桜寄贈100周年』 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/ sakura100.html 2012/03/25
- 3) 日米さくら交流100周年記念事業実行委員会 『日米さくら交流のふるさと荒川堤の桜』 東京農業大学出版会 (2012) p.5-19
- 4) 中原由美子『バレエ・フレイグランス〜舞い 香る〜第10回公演』プログラム (2012)

(受付 2013.3.27 受理 2013.6.3)